

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 岐阜イノベーション工房プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,536 千円 (前年度予算額： 9,192 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,192	4,400	0	0	0	0	0	0	4,792
要求額	7,536	3,623	0	0	0	0	0	0	3,913
決定額	7,536	3,623	0	0	0	0	0	0	3,913

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

平成29年6月6日に経済産業省から公表された「ものづくり白書2017」では、IoT等を活用したものづくり産業のビジネス変革に必要な思考方法として、「デザイン思考」「システム思考」を挙げている。

IAMASは、平成8年4月の開学以来、他に先んじてこれらの思考法に関する教育・研究に取り組んできた。このため、学内にはそのノウハウが蓄積されており、それが各方面から注目され、複数の大手企業との共同研究につながっている。

一方、県内企業の大多数を占める中小企業は、今後の生き残りのため、先述の白書の指摘にあるとおり、従来のような下請け受注中心の取引構造に甘んじることなく、独自の新規事業創出に取り組み、新たな市場開拓に取り組んでいく必要がある。しかし、どのようにアイデアを生み出し、実製品として練り上げていくか、といったノウハウはほとんど知られていない。また、IAMASがそのような実績を積み重ねている事実も、あまり知られていない。

そこで本事業では、IAMASがこれまでに蓄積してきたデザイン思考・システム思考に関するノウハウを、県内中小企業に広く理解してもらうことで、企業独自の新規事業創出の活性化を図る。

(2) 事業内容

IAMASがこれまで蓄積してきたデザイン思考・システム思考に関する教育・研究の内容について短期間で習得できる体験講座等を一般向けに提供し、新規事業創出に取り組む社内リーダーを育成する。

[事業概要]

○ 体験講座(ワークショップ)事業 (参加者18人)

- ・ 演習プログラムとして、IAMASがこれまでに教育・研究を進めてきた新規事業開発を進めるための思考方法について、試作品の制作、試行を繰り返し実践しながら会得するため、複数グループによる講座を開催する。[全10回]
- ・ 実習プログラムとして、受講者が演習で得たノウハウの応用（自社内での試作・開

発)における個別の相談に対応する。

・ 成果報告会を開催し、グループ間の取組み内容の違いについて、受講生間で情報共有する。

○令和3年度参加者継続調査事業

・ 単年度では事業成果が出にくい新規事業創出について、令和元年度の事業が企業内でどのように取り組まれたのかについて関係者ヒアリングを行い、効果測定や事業内容の見直しに活かす。

○事業成果普及啓発事業

・ ワークショップの動画を作成し、Webで公開する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

IAMASの知見を県内中小企業等に展開するための事業であり、県負担が適切

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	147	講師謝金
旅費	53	業務旅費
消耗品費	57	資料コピー代等
役務費	33	通信運搬費
委託料	7,246	岐阜イノベーション工房2021運営管理業務
合計	7,536	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県成長・雇用戦略2017ー(2)岐阜県第4次産業革命推進プロジェクト

(6) IAMASでの世界に通用する人づくり(科学と芸術の融合分野)

(2) 後年度の財政負担

事業効果を見ながら同規模で三年間の継続実施

(3) 事業主体及びその妥当性

国からも注目される本学の思考方法は、他者をおいて実施不可能。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

IoTを活用した新製品開発や新価値サービス創造について、令和5年度までに実践的に普及・促進を図り、県内中小企業の開発・経営力を強化する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H29)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	
						達成率
①シンポジウム参加者（アクセス数）	0	200	500	500	500	40%
②ワークショップ参加者数	0	19	19	56	56	33%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>新規事業創出を目指す県内企業への支援として寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シンポジウム（基調講演・ゲスト講演・意見交換） 令和3年6月1日(水) 13:30～16:00 オンライン開催（YouTube Live） 参加者数：約100人 ○ワークショップ 令和3年7月上旬に参加企業を決定 令和3年7月28日(水)～ 3月下旬 （各回 9:00～16:00 延べ8回） オンライン配信およびオンデマンドによる教材配信により実施
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>第4次産業革命の潮流の中、県の成長・雇用戦略プロジェクトを推進していくためには、これまでの現場改善を中心とした合理化に加え、新たな価値創造の視点での取り組みが不可欠。これを単なる座学のみではなく実践的に身に着ける方法として、本学の20年に亘り積み上げた教育メソッドが有効。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>シンポジウムには県内外からの参加があり、本事業への関心が高かった。また、ワークショップを通じた新規事業創出及び企業組織の改革への期待は非常に高い。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>外部専門家に委ねるだけの事業ではなく、シンポジウムのほか、ワークショップの殆どをIAMAS教員自らディレクションし、レクチャーにも従事している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>当該事業をディレクションするIAMAS教員が、自らレクチャーにも従事しているため、本来業務である大学運営にも支障が出ている。具体的にはプロジェクト研究や学生指導の時間を削いでおり、補助者(研究員等)の育成が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>第1期である3年間が経過したが、毎年、企業からの関心が高い事業である。コロナ禍の中、新たな道を模索する県内企業に、イノベーションを学ぶ機会を提供したいと考える。引き続き、効果的な事業実施を検証していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	